

スクープ!

鐵山の超大作 歴代の農林大臣賞「発見!!」

高橋鐵山てつざんという格調高い名前は、躍動感あふれる錦鯉を描くことで知られている。

新潟県長岡市内に独居していたが、一九八六年に他界。かなりの高齢ながら看取る親族・縁者はほとんどなく、不遇のうちに息を引き取ったという。

毎年開催される「長岡市展」の絵画部門において、昭和三十五年から三年間は、毎年市長奨励賞、三十八年には最高賞である市長賞を受賞している。

このたび、愛媛県の三好養魚場（三好省三代表）を訪問して鐵山の大作を眼の当たりに見たとき、「こんな大型作品があったのか」と我が目を疑った。

なぜなら、鐵山作の絵画はこれまで数点拝見し本誌の「RINKO'S GALLERY」にも二度ほど紹介してきたが、いずれも鯉は二本の組み合わせで、絵のサイズもせいぜい四十cm×五十cmくらいが多く、このように一枚のキャンバスに十一本も描いた作品は、かつて見たことがない。

（注・本誌'91年2月号には七本組みの作品を掲載）

しかも、たて百十一cm、よこ百四十cm（画の部分）という超大型作品である。

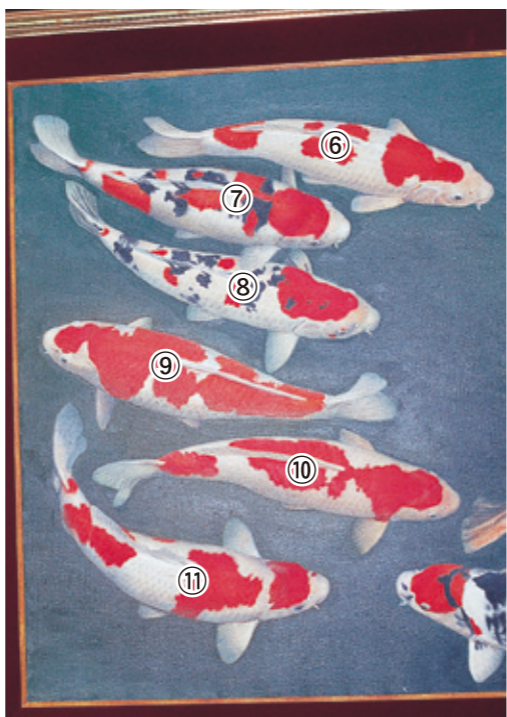
記者は絵画に造詣はないが、この作品をじっと見詰めていると立体的に見えてきて、鯉がいまにも泳ぎ出しそうな錯覚を起こす。

では、なぜこの作品が三好氏の手元にあるのか、そのいきさつを三好氏が語ってくれた。

それによると、いまから約三十年前、三好氏の先代の幸雄氏が新潟県の都屋商店（当時の宮日出雄氏）より、

絵画のみを譲り受けて自宅に持ち帰った。

そして、特注で額装した後、前面にガラスを入れるべく地元の土肥硝子（土肥敏久氏）に持ち込んだが、そのとき、土肥氏の目に止まり、「ぜ



⑥第1回紅白（約54cmオス／通称・三鞍）米山右門
⑦第2回大正三色（メス）間野一郎（和泉屋）
⑧第4回大正三色 宮 日出雄（都屋商店）
⑨第7回紅白（63cm）宮 徳蔵（宮石養鯉場）
⑩第11回紅白 宮 日出雄（都屋商店）
⑪第10回紅白（約60cm／通称・小池紅白）宮 日出雄（都屋商店）



①第6回大正三色（50cm）間野 實（大日養鯉場）
②第3回大正三色（48cmメス／通称・又右衛門）間野一郎（和泉屋）
③第9回緋写り 宮 日出雄（都屋商店）
④第8回昭和三色（通称・朔昭和）小林富次
⑤第5回昭和三色（通称・中丸昭和）小林富次

ひ譲って欲しい」と乞われ、そのまま土肥邸で人知れず、ひっそりと永い年月が流れた。

土肥氏といえば、ゆ全日鱗の全国大会で一回、全日本大会で二回グランドチャンピオンを獲得した愛好家である。

しかし、土肥氏が三年前に他界され、令夫人より「お返ししたい」との申

し出を受け、三十年ぶりに三好邸に里帰りとなった。

ここで改めて作品を見てみよう。描かれている鯉は、新潟農業祭の第一回から十一回までの農林大臣賞の鯉が躍動的に表現されている。

今回、忘れ去られていた名画が発見されたことは、業界にとってもセンセーショナルなことである。

34年前の名作が
三好養魚場で甦る